

医師研修プログラム

2021年4月 出田眼科病院

1. レジデント
2. フェロー
3. 常勤医師

【研修プログラムについて】

本プログラムは、眼科臨床医として必要な知識、臨床技術を習得することを目標としています。研修のレベルとして下記1～3の段階を設けています。1は、一般眼科医研修を目標とする医師の研修目標を定めています。また2では、眼科専門医取得後さらに専門性の高い領域の研修を望む医師のためのフェロー研修が可能です。3は、経験を積んだ常勤医や生涯学習を希望する方向けです。

1. レジデント：卒後3～6年
 - ① ジュニアレジデント：卒後3～4年
 - ② シニアレジデント：卒後5～6年※旧専門医制度での研修を中断されている方が対象です。
2. フェロー：眼科専門医取得者、2年間
3. 常勤医師：フェロー終了者

上記は一般原則であり、個人の研修レベルによって変わり得ます。なお、他施設で研修してきた医師や大学からの派遣の医師も、卒後年次及び経験によって以上のいずれかに編入可能です。

また、当院では理念として“誠の心”を掲げており、技術と同等に人間性を重視しています。具体的には、①患者さんの心身の治療に専心する、②専門知識の研鑽と人格形成に努める、③社会の変化に柔軟に対応し、地域に貢献することを目標としています。採用時や次の段階へのステップアップ時には、当院の医師としての適正も考慮されます。

【各研修プログラムの概要など】

1. レジデント

(ア) 研修対象者、期間

レジデントは初期臨床研修の2年間を終了した卒後3～6年目の医師を対象とします。4年間の期間をジュニアレジデント（卒後3～4年）、シニアレジデント（卒後5～6年）の2つの期間に分けます。眼科専門医制度で義務化されている1年間の大学での研修は、ジュニアレジデント2年目（卒後4年目）を原則としますが、各人と相談して決定します。

(イ) 研修目標

一般眼科臨床を研修する事を目標とします。一般眼科医として眼科領域の疾患の診断、治療に責任をもって対処できるための知識と技術を獲得します。研修終了時には眼科専門医として試験に合格し、自立できるように、日本眼科学会専門医制度「眼科研修医ガイドライン」及びアメリカの研修のマニュアルである「The Wills Eye Manual」に則ってすすめていきます。なお、当院は日眼専門医制度認定施設となっております。（認定第4021号）

(A) 前半の2年間はジュニアレジデントと称し、眼科検査及び治療技術の理解と習得に努めます。ジュニアレジデント1年目はフェローやシニアレジデントについて眼科診療の基礎知識と技術の習得を目標とします。また、指導医と共に外来及び入院患者を受け持ち、患者や家族との関わり方、チーム医療の実践などを学習します。光凝固治療や外眼部手術の執刀を行い、また内眼

手術の基本的な手技や手術理論を学習し、手術助手を行い、白内障手術の研修も開始します。また、症例検討会や医局会に参加し、研究発表や論文作成なども指導医のもとで行います。ジュニアレジデント2年目は眼科専門医制度で義務化されている1年間の大学での研修を原則とします。研修は当院と関連のある大学で行いますが、各人の希望によりその他の大学でも可能です。また、ジュニアレジデント1年目に大学での研修を希望される場合も相談に応じます。ジュニアレジデント終了時に指導医の研修評価を受け、後半のシニアレジデントの研修期間の方針を決定します。

(B) 後半の2年間はシニアレジデントと称し、診療技術のさらなる向上及び専門的技量の習得を目指します。また、白内障手術などの内眼手術の研修を本格的に行い、研究発表や論文作成などもさらに進めていきます。

(A) (B) の期間を通じて、医の倫理、医療に関する法律を学びます。

2. フェロー

(ア) 研修対象者、期間

当院でレジデント研修を終了し眼科専門医を取得した者、または他施設で研修し眼科専門医を取得した者を対象とし、研修期間は2年間とします。必要に応じ延長も可能です。

(イ) 研修目標

当院の専門領域である網膜・硝子体疾患を研修する事を目的とする網膜・硝子体フェロー、緑内障フェロー及び眼形成フェローを設けていますが、すべての分野の研修が可能です。

(A) 網膜・硝子体フェロー

- ・ 内科外科網膜疾患の診断学
- ・ 網膜剥離に関連する光凝固および冷凍凝固などの非観血手術
- ・ 強膜バックルなどの強膜手術
- ・ 種々の疾患に対する硝子体手術

の習得を目標とします。また、難易度の高い白内障手術には硝子体手術の技術が必要となる場合が多いので、これについても研修を通じてレベルアップが可能です。

責任医師：川崎勉（副院長）

(B) 緑内障フェロー

- ・ 各種緑内障の診断学
- ・ 各種緑内障手術の理論と実際

責任医師：松元俊（副院長）

(C) 眼形成フェロー

- ・ 眼形成眼窩疾患の診断学
- ・ 眼形成眼窩疾患の治療理論と実際

責任医師：出田真二（院長）

(ウ) 手術目標の基準

白内障手術ランク

- C：執刀する場合に指導者を必要とする。
- B：手術中のトラブルに対しては、応援を必要とする。
- A：手術中のトラブルに対し自ら対処できる。

網膜剥離手術ランク

- D：眼底・硝子体のスケッチを的確に行える。
- C：網膜冷凍凝固術が行える。
- B：位置決めや排液などを行える。
- A：強膜切開が行える。

硝子体手術ランク（初心者） 術者になるには白内障手術ランク B 以上が必要

- D：眼底・硝子体のスケッチを正確に行える。
- C：単純な硝子体切除術が行える。
- B：黄斑円孔や黄斑浮腫など黄斑疾患の硝子体手術が行える。
- A：癒着のある硝子体手術を行える。

◎フェロー終了医師

- フェロー終了時のそれぞれの手術ランクを評価する。
- ランク A に達していない場合は、ランク A に達するよう引き続き努力する。
- ランク A に達したものは、次なる目標を院長らスタッフと相談する。
- さらに網膜硝子体手術を研修する場合は、以下の網膜硝子体上級ランクを参考にする。
 - ・ 網膜剥離の硝子体手術が行える。
 - ・ 増殖糖尿病網膜症や増殖硝子体網膜症の硝子体手術を行える。
 - ・ バックルを一人で行える。
 - ・ 再手術のバックルが行える。
 - ・ 再手術の硝子体手術が行える

3. 常勤医師

(ア)対象者

当院でのフェロー研修を終了した者で、研修後当院での勤務を希望する者。

※ 他医療機関で研修終了し、当院で一般診療をする者も常勤医師ではありますが、この研修プログラムからは外れます。

(イ)目標

当院の専門領域である網膜・硝子体疾患や緑内障の診療の実践を通してさらに技量を磨きながら就業する事を目標とします。また、希望に応じてさらに別の領域の研修を行う事も可能です。

【身分・待遇】

当院の定める給与基準によります。

【研修評価】

1. レジデント

研修は日本眼科学会専門医制度の「眼科研修医ガイドライン」及びアメリカの研修のマニュアルである「The Wills Eye Manual」の項目に準じて行います。1年に1度研修の進行状況の評価してフィードバックを行い、次の1年間の研修方針を決めていきます。

2年間のジュニアレジデント終了時に人間性と技術面を評価し、さらに2年間シニアレジデントとして研修するか、研修の希望などを相談します。

2. フェロー以上

人間性と技術面を別紙の如き基準で院長らスタッフが評価します。人間性は技術面と共に重要であるので、人間性の評価を定められた項目に従って行いません。技術面では別紙の白内障ランク、網膜硝子体ランク、緑内障ランクで別に定められた評価をして、ランクアップの認定を行います。

【研修終了後の進路】

1. レジデント

ジュニアレジデント終了時をひとつの区切りとしますが、引き続きシニアレジデントとして研修が可能です。ジュニアレジデント終了時に他施設での研修を希望する場合は相談に応じます。シニアレジデント終了者は専門医試験を受験し、一般眼科医として一人前となります。その後は、①網膜硝子体疾患の研修を行うフェローに進む、②緑内障の研修を行うフェローに進む、③眼形成の研修を行うフェローに進む、④一般眼科医として当院に勤務、⑤他施設に勤務し更に自分の目指す分野に進むなど様々な可能性が考えられ、相談に応じます。

2. フェロー

フェロー研修を終了した者は適正と認められれば、当院で常勤医としてさらに症例を経験し、研鑽をつむ事も可能です。また、他施設や派遣元の大学などでの勤務なども考えられます。希望を相談して決定します。

【指導スタッフ】

出田秀尚（名誉院長）、出田真二（院長）、松元俊（副院長）、川崎勉（副院長）、
照屋健一（診療部長）、三ヶ尻健一（医局長）、石橋健（分院院長）、林メリージェーン（麻酔科長）

【専門外来】

当院では専門領域である網膜硝子体疾患、緑内障、眼形成の他に、以下の分野で専門の一流の医師を招聘し、専門外来・手術を担当して頂いております。従って全眼科領域の研修としても、高レベルの診療に触れることができます。

専門分野	医師名	所属・役職
角膜	山口 剛史 先生	東京歯科大学市川総合病院眼科准教授
	天野 史郎 先生	お茶の水・井上眼科クリニック院長
白内障	徳田 芳浩 先生	井上眼科病院(東京)副院長
緑内障	結城 賢弥 先生	慶應義塾大学医学部眼科学教室講師
	豊川 紀子 先生	永田眼科(奈良)副院長
網膜硝子体	吉田 茂生 先生	久留米大学医学部眼科学講座主任教授
黄斑疾患	永井 由巳 先生	関西医科大学眼科学教室准教授
ぶどう膜	八幡 信代 先生	九州大学医学部眼科学教室准教授
斜視・弱視	三村 治 先生	兵庫医科大学名誉教授
神経眼科	増田 明子 先生	兵庫医科大学眼科学教室助教
遺伝性疾患	三宅 養三 先生	公益社団法人 Next Vision 代表理事 名古屋大学名誉教授

※研修ご希望の方へ

研修のご希望は随時受け付けております。電話またはEメールにてご連絡の上、履歴書、臨床研修期間の業績、学会発表・論文作成があればその資料をお送り下さい。

選考は書類審査及び面接にて行います。

【お問合せ先】

出田眼科病院 〒860-0027 熊本市中央区西唐人町 39

電話：096-325-5222 Fax：096-311-5512

E-mail：info@ideta.or.jp 担当：高本昌彦